（別記）

令和４年度三石農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、水田対象面積に占める主食用米面積の割合が約１０％と転作が進んでいる。転作作物に占める飼料作物（牧草）の面積が約９６％となっており、家畜の粗飼料として利用されている。

また、農業従事者の高齢化や後継者不足により離農農家が増加傾向にあり、受け手のいない農地の増大が懸念され、その農地管理への対応が今後課題となる。

２　高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

高収益作物については、当町における重点振興作物である花卉（特にデルフィニウム）が生産面積の拡大や集出荷・共選体制の充実、販路の拡大などにより順調に販売金額を伸ばし、消費者や市場関係者からも高い評価を得ており、今後も国内有数のデルフィニウム産地として安定した生産量や有利な価格取引を維持していくため、現在の作付面積の維持・拡大を図る。

また、新たに薬用作物（特にトウキ）を対象作物にすることで農地の有効利用を促し、安定した生産量の確保により、農業所得の向上へ繋げていく。

地域振興作物については、当町における重点振興作物であるアスパラガスの生産面積が横ばい又は減少傾向で推移していることから、引き続き増収に向けた支援が必要である。

飼料作物については、主要転換作物として、生産基盤の維持が求められているが、草地更新頻度の少なさから、裸地部が増加するなど、畜産経営へ深刻な影響を及ぼしている。このことから、草地更新の推進を図り、良質な飼料作物を生産するための圃場整備を促す。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

主食用米の需要の減少傾向が続くことが想定され、農業従事者の高齢化や後継者不足による離農が想定される中、農地の排水性の改善や集積等に対する計画的な取り組みは、今後の農地利用に大きな影響を与えることになると思われる。

また、毎年実施している現地作付状況調査及び転作意向調査により水稲を組み入れない作付体系が長年定着している状況を踏まえ、水田利用する見通しがないことが確認さ

れた圃場については、地域における効率的な農地利用にも配慮しつつ、畑地化支援を進める必要性がある。

なお、連作障害回避等のため、子実用トウモロコシ、馬鈴薯、薬用作物等、地域に適した畑作物を模索していく必要があり、今後５年間にブロックローテーション体系を構築させていくため、関係機関・団体と連携を図っていく必要性がある。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

飼料作物への転作が進む中で、良質米生産技術の維持と向上に向けた生産を基本に、地場産米の販売推進を図る。

（２）備蓄米

現行では取組方針はない。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

現行では取組方針はない。

イ　米粉用米

現行では取組方針はない。

ウ　新市場開拓用米

現行では取組方針はない。

エ　WCS用稲

現行では取組方針はない。

オ　加工用米

現行では取組方針はない。

（４）麦、大豆、飼料作物

麦については、良質栽培管理の実践や輪作体系の取り組みを行うこととし、現行の作付面積を維持していく。大豆については、現行では取組方針はない。

飼料作物については、代表的な転作作物として、今後も担い手への利用集積を始め、家畜飼養規模に見合う牧草の確保を図る。

（５）そば、なたね

現行では取組方針はない。

（６）地力増進作物

地力増進作物の作付けにより地力の回復を進め、高収益作物の作付面積の維持・拡大

を図る。

地力増進作物助成（地力増進作物）				
アカクローバー	アルサイククローバー	イタリアンライグラス	えん麦	カラシナ類
キガラシ	ギニアグラス	クリムソンクローバー	スーダングラス	ステビア
ソルガム	とうもろこし	ナタネ	はぜりそう	ひまわり
ヘイオーツ	ベッチ類	ペルコ	マリーゴールド	ライ麦
レバナ				

（７）高収益作物（園芸作物等）

地域の振興計画により、花卉とアスパラガスを地域の振興作物として今後も担い手への利用集積を始め、現行の作付面積を維持・拡大を図る。

５　作物ごとの作付予定面積等

（単位：ha）

作物	前年度の作付面積		当年度の作付予定面積		2023年度の作付目標面積	
		うち二毛作		うち二毛作		うち二毛作
主食用米	141.21		134.54		141.66	
備蓄米	0.00		0.00		0.00	
飼料用米	0.00		0.00		0.00	
米粉用米	0.00		0.00		0.00	
新市場開拓用米	0.00		0.00		0.00	
WCS用稲	0.00		0.00		0.00	
加工用米	0.00		0.00		0.00	
麦	0.00		0.44		0.56	
大豆	0.00		0.00		0.00	
飼料作物	1,286.87		1,293.52		1,282.34	
そば	0.00		0.00		0.00	
なたね	0.00		0.00		0.00	
地力増進作物	0.00		0.00		0.00	
高収益作物	14.42		15.06		17.03	
野菜	4.05		4.05		4.70	
花卉	10.21		10.21		10.93	
薬用作物	0.16		0.80		1.40	
畑地化	0.00		0.00		0.00	

6　課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	花卉（施設）	地域振興作物助成	作付面積	(2021年度) 9.61ha	(2023年度) 9.54ha
			出荷指針遵守面積	(2021年度) 9.44ha	(2023年度) 9.30ha
2	ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ（施設）	地域振興作物助成	作付面積	(2021年度) 1.53ha	(2023年度) 1.59ha
			出荷指針遵守面積	(2021年度) 1.39ha	(2023年度) 1.44ha
3	ばれいしょ、花卉、野菜、薬用作物	高収益作物助成	作付面積	(2021年度) 3.21ha	(2023年度) 4.94ha
			出荷指針遵守面積	(2021年度) 1.09ha	(2023年度) 1.20ha
4	豆類、ばれいしょ、花卉、野菜	直売所・直接販売助成	作付面積	(2021年度) 14.42ha	(2023年度) 16.00ha
			対象面積	(2021年度) 2.13ha	(2023年度) 2.77ha
			出荷手数料等(平均)	(2021年度) 13.70%	(2023年度) 13.30%
5	麦	麦品質向上化助成	作付面積	(2021年度) 0.00ha	(2024年度) 0.50ha
			取組面積	(2021年度) 0.00ha	(2024年度) 0.50ha
			品質の向上	(2021年度) －	(2024年度) 2等A
6	飼料作物（飼料用米を除く）	畜産振興加算	作付面積	(2021年度) 1,286.86ha	(2023年度) 1,282.30ha
			取組面積	(2021年度) 380.35ha	(2023年度) 388.00ha
			単収	(2021年度) 4.14t/10a	(2023年度) 3.92t/10a
7	飼料作物（牧草）	水田放牧助成（耕畜連携）	作付面積	(2021年度) 1,286.86ha	(2023年度) 1,282.30ha
			取組面積	(2021年度) 9.95ha	(2023年度) 11.00ha
8	飼料作物、ＷＣＳ用稲	資源循環助成（耕畜連携）	作付面積	(2021年度) 1,286.86ha	(2023年度) 1,282.30ha
			取組面積	(2021年度) 695.69ha	(2023年度) 709.30ha
9	飼料作物（ＷＣＳ用稲・飼料用米を除く。）	生産作業効率向上化加算	・作付面積	(2021年度) 1,286.86ha	(2024年度) 1,282.70ha
			・飼料作物作付け農家１戸当たりの平均団地化面積	(2021年度) 3.52ha	(2024年度) 3.58ha
			・飼料作物作付け者に対する団地化を行っている者の割合	(2021年度) 70.70%	(2024年度) 72.00%
10	飼料作物（多年草に限る）	草地更新支援	作付面積	(2021年度) －	(2024年度) 1,282.70ha
			取組面積	(2021年度) －	(2024年度) 32.00ha
			単収	(2021年度) －	(2024年度) 3.93t/10a
11	地力増進作物	地力増進作物助成	作付面積(高収益作物)	(2021年度) －	(2024年度) 14.40ha
			取組面積	(2021年度) －	(2024年度) 0.16ha

※　必要に応じて、面積に加え、該当取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※　目標期間は３年以内としてください。

７　産地交付金の活用方法の概要

整理番号	使途 ※1	作期等 ※2	単価（円/10a）	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	地域振興作物助成	1	60,000	産地交付金の活用方法の明細（個票）整理番号１の別紙のとおり	出荷指針（土壌消毒（連作障害対策）、病害虫予察の実施）をもとに出荷・販売すること
2	地域振興作物助成	1	60,000	施設アスパラガス	出荷指針（土壌消毒（株の植え替え時）、病害虫予察の実施）をもとに出荷・販売すること
3	高収益作物助成	1	60,000	ばれいしょ、花卉(露地)、野菜(施設アスパラガス以外)、薬用作物(トウキ、オウギ、ソヨウ)	出荷指針をもとに出荷・販売すること
4	直売所・直接販売助成	1	20,000	豆類、ばれいしょ、花卉、野菜	対象作物を栽培し、直売所で販売又は直接消費者等に販売すること
5	麦品質向上化助成	1	16,000	麦	前年度に緑肥としてマメ類等のすき込みを行った圃場で麦の作付けし、雑草防除等の品質向上対策を行うこと
6	畜産振興加算	1	10,000	飼料作物（飼料用米を除く）	肉用牛・乳牛・農用馬の繁殖の生産に必要な飼料作物を作付した水田で、繁殖１頭あたり８０ａを上限とし、生産性向上の取組として、堆肥の散布を行った圃場等
7	水田放牧助成（耕畜連携）	3	7,154	飼料作物（牧草）	当該年度における放牧の取組で、1ha当たりの放牧頭数が成牛換算で２頭以上であること。なお、成牛換算においては育成牛2頭あたり成牛１頭とする等
8	資源循環助成（耕畜連携）	3	7,174	飼料作物、WCS用稲	当該年度における堆肥の散布の取組で、散布される堆肥が、利用供給協定に基づき水田で生産された粗飼料作物等の供給を受ける家畜（軽種馬を除く）の排せつ物から生産されたものであること等。
9	生産作業効率向上化加算	1	7,174	飼料作物（WCS用稲・飼料用米を除く）	助成対象作物：飼料作物（軽種馬に給与されるものを除く）であって、町内で利用するもの。また、団地化要件：１団地が概ね３ｈａ以上の面積で、２団地の取組の場合は、１団地の面積は概ね１．５ｈａ以上とする
10	草地更新支援	1	40,000	飼料作物（多年生牧草に限る）	耕起を伴う草地更新を行うこと（播種含む）。
11	地力増進作物助成	1	20,000	地力増進作物	当該年度に収穫がない場合に、地力増進作物を作付けし、鋤込みを行うこと（連年緑肥：２年以上連続した地力増進作物を除く）。

８　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※農業再生協議会の構成員一覧